

お茶飲みながら連携づくり

「ねこの茶屋」開催

多職種集い、意見交換

方、事業所運営に関することなど。参加者同士が名刺を交換、ケアマネや他事業所スタッフらとも交流した。

佐々木斎子管理者

（社会福祉士、介護福祉士、主任ケアマネ）はサービス担当者会議、モニタリングなどで外出することも多く、自身が事務所に滞在する時間をつくることで、多職種の交流できる場を

仕事や働き方について意見を交わしたねこの茶屋



つくりたいと初めて企画した。

同市内のつなぐ手ケアマネセンターの金澤幸一さん（ケアマネ）は

「（他職種と）ざつくば

らんに話せる機会は少ない。このような場は

重要」。手稲区第1地域包括支援センターの久

村和也さん（社会福祉士、ケアマネ）は「同業

者が集まり、他区の情報も聞ける」と意義を語る。

出席者からは今後の開催について、「座談会形式でやるのはどうか」「常連ばかり参加す

るのではなく、新しい人が参加しやすくしたい」といった提案も寄せられた。

今後はケアマネ受験、起業の相談に乗る場にしたい考えだ。居宅、施設に限らず、さまざまな場面で活動するケアマネをゲストに招くことも検討中。佐々木管理者は「月1回程度の頻度で開催できればいい。いろいろな人が集まり、つながりをつくっていったら」としている。

札幌市東区の居宅介護支援事業所ねこのて相談センターは、ケアマネをはじめ介護に関わる専門職らが相談・情報交換の

場とする「ねこの茶屋」を開始した。月1回程度開催を通して、従事者の横のつながりを生み、職種を超えた連携を生み出したい考えだ。9日の初回はケアマネ、施設紹介業者、訪問専門職間連携の在り